

その他ガンマ線核種の解析（平成27年度）

Cs-134 及び Cs-137 以外のガンマ線核種（事故由来放射性物質（I-131、Ag-110m、Te-129、Te-129m、Nb-95、Sb-125、Ce-144 等）及び主な自然由来放射性物質（K-40 等））について媒体（水質、底質及び周辺環境（土壌））別に解析を行った。

なお、ゲルマニウム半導体検出器付属の解析ソフトにより核種ピークを検出した場合は、放射能が検出限界値以上のときは検出とし、検出限界値より小さいときは不検出とした。

水質 3,916 検体、底質 3,158 検体、周辺環境（土壌）4,768 検体について解析したところ、人工核種については、Cs-134 及び Cs-137 が検出され、それ以外の核種は検出されなかった。

また天然核種としては、水質では Pb-212(同種類総検体数の7%)、Pb-214(同9%)、K-40(同7%)、底質では Pb-212(同63%)、Pb-214(同67%)、Tl-208(同37%)、Bi-214(同60%)、Ac-228(同32%)、K-40(同88%)、周辺環境（土壌）では Pb-212(同39%)、Pb-214(同36%)、Tl-208(同15%)、Bi-214(同30%)、Ac-228(同15%)、K-40(同92%)等が検出された。